

令和 7 年度 第 2 回小金井市精神保健福祉連絡協議会 意見のまとめ

議題(3) 精神保健福祉連絡協議会部会で協議された内容について精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築として、小金井市としてどんな施策に取り組んでいくか部会の協議経過を共有したうえで議論、委員から出された意見を分野別に集約した。

○意見要約

(1) ヘルパー、福祉分野職員の就労について

- ・払える報酬額の上限(給付費)が決まっていると給与を上げることができない。
- ・他分野も含めて人の奪い合いが始まっている中で、どうしてもヘルパーを選択するという動機が希薄になりがち。
- ・最近、福祉以外の分野で働いている方、当事者からも就労の問合せがある。いろいろなパターンを想定して、福祉職に携わる人の裾野を広げていけるように就労できる環境を整えられるとよい。
- ・「就労で報酬を受け取りたくない。」という方もいる(報酬が発生するというプレッシャーを敬遠)。そのような方をハードル低く呼び込みたい。

(2) ボランティアについて

- ・ボランティアで(支援現場を)見てもらって、「(支援について)思っていたよりもハードルが低い。」と感じてもらいたい。

(3) ピアの活用について

- ・ピアの活用は今後の地域包括ケアを考える上では避けられないテーマ。協議会での地域包括支援の検討の中でも、車の両輪に当たる重要な取組だと考える。ピアの育成等、活動を段階的に進めることで、地域生活支援の質をより高めていくのではないか。
- ・ピアサポートを小金井市の方がどれぐらい必要としていて、どれぐらいやりたいと思っているのかがわからない。
- ・ピアサポートを実施するにあたっては、実際に行う方のサポート、その方が負担に思わないようなやり方が大事。
- ・精神障がいのある方を見ていると、ピア活動に参加できそうな方も結構いて、参加することで成功体験を感じ自信もついていくと思うので、そういう場があるといい。
- ・ピアについて、居住している自治体で仕事をするとプライベートとの切り替えがうまくいかないケースがあると聞いているため、複数の自治体で人材のたすき掛けなどで就労できる仕組みがあるとよい。